



大切なプレゼント

あさみちゆき Asami Chiyuki

井の頭公園でストリートライブを始めてから丸9年。振り返ってみると、様々な「場面」が思い浮かぶ。私の人生は、この井の頭公園のストリートライブがあったからある…。そう言っても過言ではない。

山口県から上京して5年、現実と夢とのギャップに何もかも嫌になった時期があった。人が信じられない、誰にも会いたくない、自分自身、人、夢への絶望感。私はもうだめなんだ…。「絶望」という心の痛みが、チクチクと身体を刺す。そんなときに一人のストリートミュージシャンに出逢った。その人は、ただ楽しそうに歌っていた。私は、そのときに「ただ歌うこと」の大切さを思い出した。意味はない、理由はない、ただ楽しいから歌うんだ。「音楽」の二文字の意味が、身体に浸透した。痛み止めの薬が、やんわりと効いた感覚だ。

そして私は、「井の頭公園」でストリートライブを始めた。「ただ歌うこと」を求めて…。初めは、足を止めてくれる人もなく、拍手をしてくれる人もなく、時間は過ぎていった。「ただ歌うこと」——それだけを心に、時にへこたれそうになる自分に活を入れながら…。ストリートライブを始めて一ヶ月くらい経った頃、遠くで拍手が聞こえた。私は、嬉しくて嬉しくて、拍手の音のするところに駆け寄った。そこには、おじさん二人が、ベンチに座って、缶チューハイを飲んでいた。

「拍手をして下さって、ありがとうございます。」
「俺たちの好きな歌を歌ってくれてるな。今度はいつ来るんだ？」

「来週の土曜日、お昼に2時から歌います。」
「じゃ、俺たちも来るよ。」

この出逢いから、「人の輪」が広がっていった。一つの出逢いが二つになり、そして三つになり、そこ

には小さなたまり場が出来た。毎回私が公園に着くと、おじさんたちは目の前に立って、拍手をしてくれるようになり、大きな声で掛け声をかけてくれるようになった。

いろんな音楽を聴いた方がいいからとCDをたくさん持ってきてくれた方、仕事の途中にこっそりと来て下さり、思いっきり応援をしてくれてまた会社に戻っていった方、身体に気を付けなさいと家で作った野菜を持ってきてくれた方…。ここで出逢う人達は、まるで本当の娘のように、本当の妹のように接してくれた。上京して一人ぼっちだった私に「家族」が出来たのだ。デビューが決まったときも自分のことのように喜んでくれる人がいた。本気で心配してくれる人がいた。

「ただ歌うこと」から始めたストリートライブは、私にとって、なくてはならないものへと変わっていった。人のために一生懸命になること、人への優しさ、あたたかさ…。人を信じられなかった自分に、「無償の愛」という大切なことを教えてもらった。人を疑うことより、人を信じてみよう、人を愛してみよう。井の頭公園での出逢いがなかったら、私はどうなっていたのだろう…。歌手という職業には就かなかっただろうし、本当の笑顔で笑うこともなかったかもしれない。みんなに教えてもらったことを、今度は私が、伝えていきたい。まだまだ未熟者の私だが、少しずつ少しずつ。私はこれからも、井の頭公園へ行く。あなたの笑顔に会いに…。

あさみちゆき

山口県出身。井の頭公園でのストリートライブをきっかけに、2003年ティチクレコードよりデビュー。ヒット曲に「井の頭線」「青春のたまり場」「鮎屋で…」等。NHKのテレビ、ラジオにも多数出演。